高知県教育だより
夢のかけ橋
第108号（令和８年10月発行）
10月

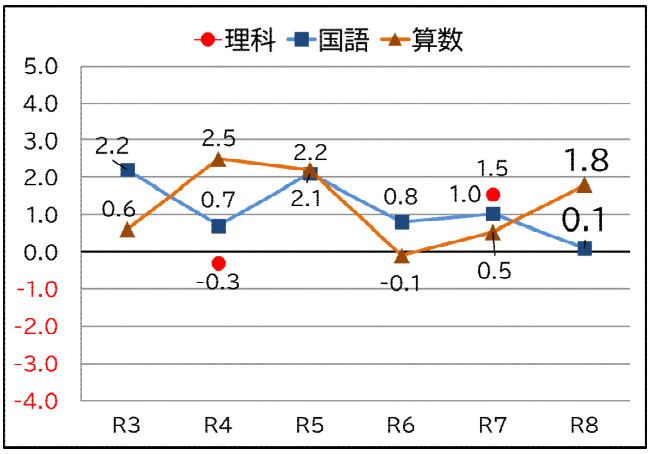
Topics 1 令和８年度全国学力・学習状況調査結果について

本年４月 20 日から５月 29 日の期間に実施した全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。悉皆調査としては 16 回目、抽出調査を併せると 18 回目の調査となり、今回の調査は、国語、算数・数学に加えて、３年ぶりに中学校英語の調査が実施されました。

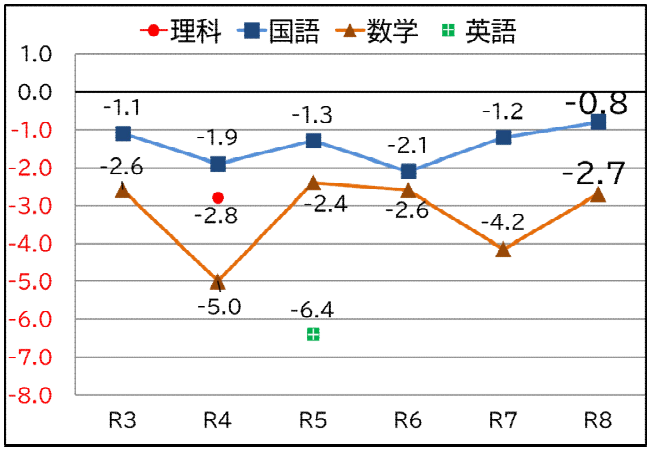
●教科に関する調査の結果

・小学校については、県の平均正答率が、国語・算数ともに全国平均以上を維持しています。
・中学校については、国語・数学ともに全国平均には及ばないものの、前年度と比べて着実に改善が見られます。また、オンライン方式で実施された英語のスコアは、全国標準の区分に位置しています。

小学校



中学校



中学校英語

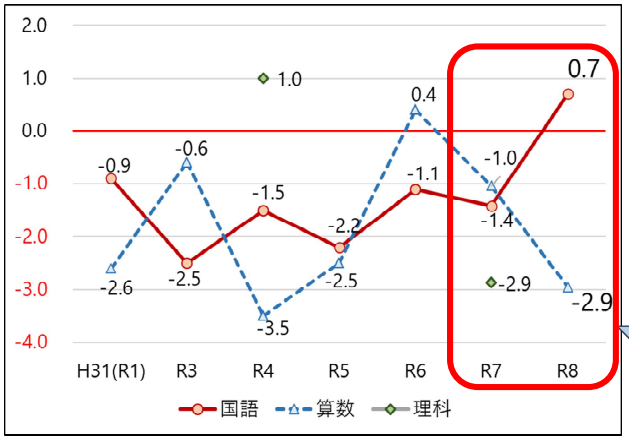
	IRTスコア
高知県	468
全国	499

IRTバンド	1	2	3	4	5
スコア	～329	330～443	444～558	559～673	674～

●学力に課題が見られる学力層（D 層）

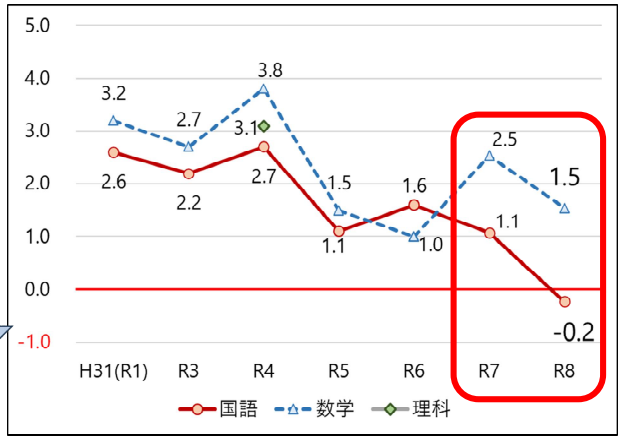
・小・中学校ともに、学力に課題が見られる児童生徒（D層）の割合が多くの教科で前年を下回り、減少傾向にあります。

小学校



減少すると改善傾向

中学校



●評価の観点別結果

・小・中学校ともに「思考・判断・表現」は全ての教科で全国平均と同等またはそれ以上となった一方、「知識・技能」については、課題が残る結果となりました。

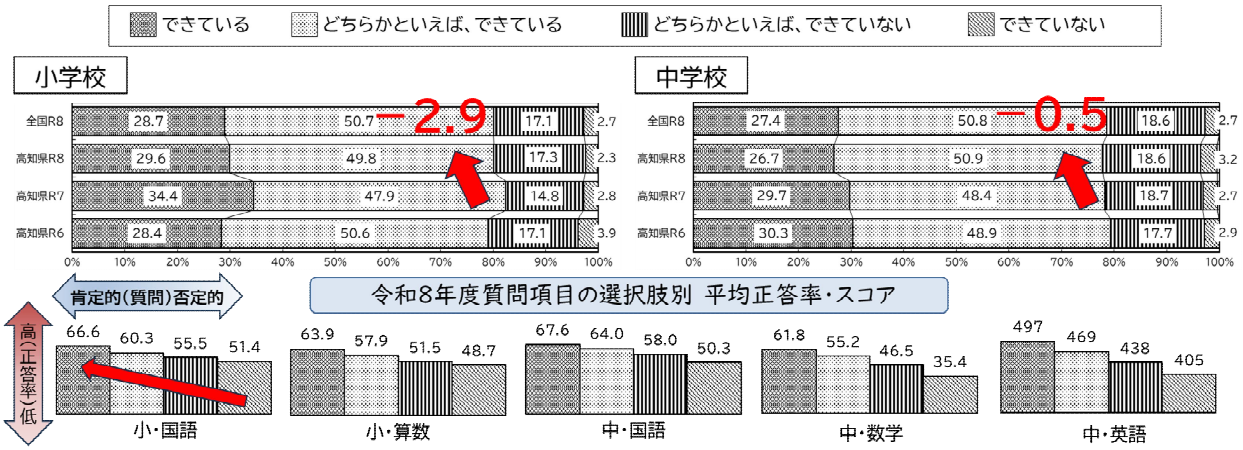
	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学
思考 判断 表現	＋0.9	＋3.9	±0.0	−0.2
知識 技能	−1.1	＋1.1	−1.8	−3.5

Ｒ８全国学力・学習状況調査　各教科の観点別正答率（全国平均との差）

●主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられました。一方で、この項目の肯定的回答は前年よりやや減少しています。

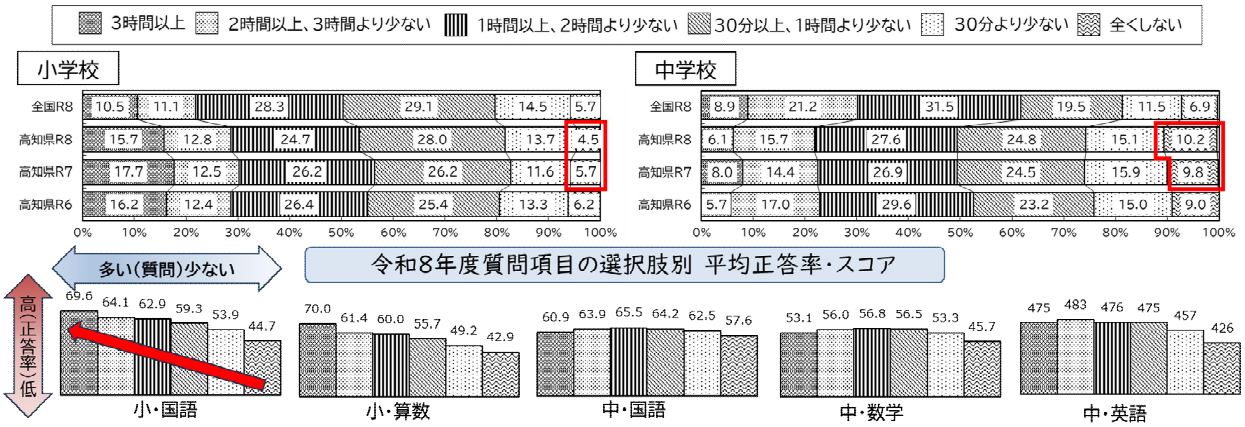
【児童・生徒質問調査22】
分からないことやくわしく(詳しく)知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



●授業外での学習状況

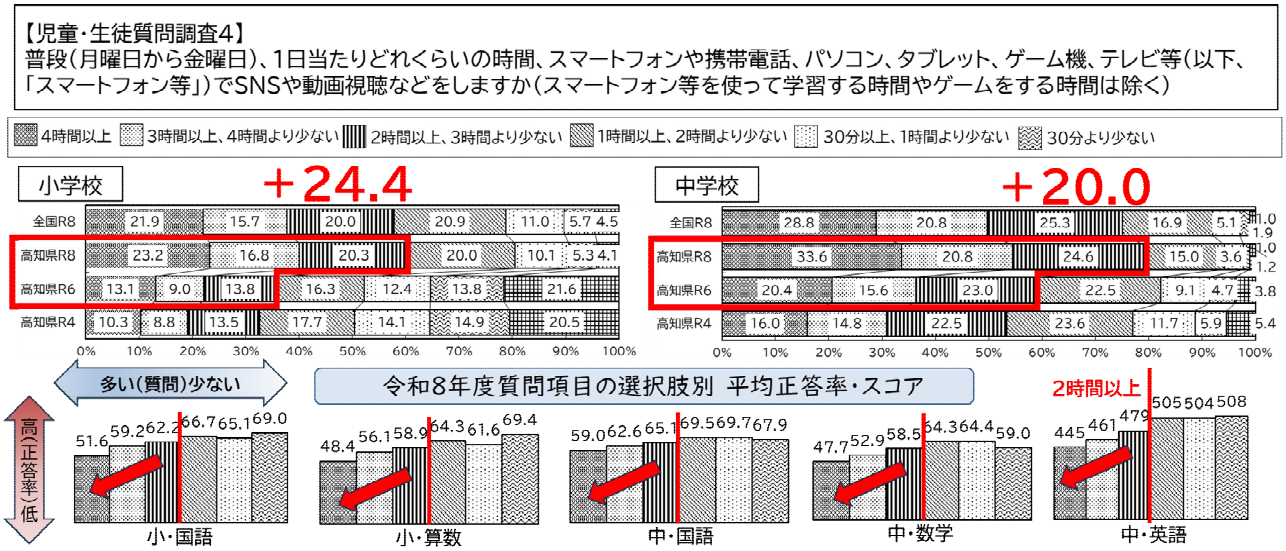
・「全く勉強しない」と回答した割合は、令和７年度と比べると小学校では減少しましたが、中学校では増加しています。また、小学生では学習時間が長いほど、中学生では１～２時間未満までの層で学習時間が長いほど各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられました。

【児童・生徒質問調査23】
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



●授業外での生活状況（SNS や動画等）

・SNS や動画視聴などの利用時間が、２時間以上利用する児童生徒の割合が、前回調査を大きく上回る結果となりました。また、SNS 等の利用時間が２時間を超えると、教科の正答率・スコアが低下する傾向がみられました。

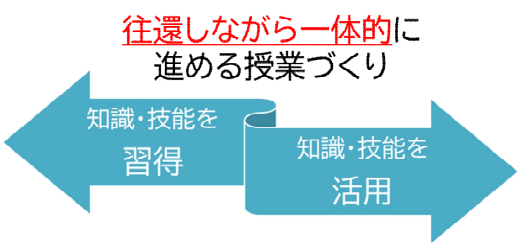


教職員のみなさまへ

●知識・技能の確かな定着に向けた取組

今回の調査結果からは、知識・技能の定着に課題が見られました。

「教える」「覚える」だけの知識・技能の習得に留まらず、探究的な学びの過程（各教科等の学習過程）を通しながら知識・技能の概念（意味）を理解し、確かな定着につなげる取組の推進をお願いします。



●情報モラルを含む情報活用能力の育成



スマートフォンやＳＮＳ等の利用が日常化する中、情報モラル教育の充実は学校だけでなく、家庭や地域と連携して取り組むことが重要です。

特に、日常的な利用については、学校と保護者が連携し、発達段階に応じたフィルタリングやペアレンタルコントロールの活用、家庭でのルールづくりなどを進めていくことが求められます。

各校においては、情報モラル教育の系統的・計画的な取組を進めるとともに、県教育委員会が発行している「情報モラル教育実践ハンドブック」を活用した授業の実施や参観日等を活用した保護者・児童生徒を対象とした情報モラル研修会、学校運営協議会等と連携した家庭・地域への啓発など、ＳＮＳ等の安心・安全な利用に向けた多面的な取組をお願いします。

高知家まなびばこ
教職員専用ポータルサイト
【人権教育・児童生徒課】

詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/

問い合わせ
小中学校課　学力向上・教育 DX 推進担当
TEL：088-821-4735

Topics 2 高知家の生徒一人一人が夢に近づくために　«次世代総合教育会議»

令和８年８月５日（水）に、県内の高等学校・特別支援学校高等部の生徒と知事や県教育長・教育委員と意見交換をする「次世代総合教育会議」が開催されました。今年度の会議には、明徳義塾高校、高知追手前高校、盲学校、嶺北高校、宿毛工業高校に通う５名の生徒が委員として参加し、「「自分の未来・夢について」～高知家の生徒一人一人が夢に近づくための学校教育・学びの在り方とは～」について発表をしていただきました。



高校生委員からの声

- 「学校に行かされている」という意識を**「自分から学びたい」**に変えていくことが、夢に近づく第一歩。そのために、**教師と生徒が互いに「学んでほしい」「学びたい」と思える関係と環境を作ること**が重要。
- 生徒が自分の短所と向き合いやすくするための「場」として、**いつもとは違う体験や活動をより多く取り入れる**と、生徒が苦手なことにも没頭し、日々を充実させることができる。
- 学校にいるうちから**主体的に職場実習などに取り組むことができる環境**が極めて大切。**進路に向けてじっくり考え、体験できる時間が充実すること**は、私たちの未来を大きく変えるきっかけになる。
- **生徒が予算の使い道を決定できる仕組みとして「生徒会裁量予算」**があるとよい。生徒が考えた企画を自分たちの力で形にし、実現することは、夢を実現するきっかけになる。
- **早い段階から進路に合わせた授業を選択できる体制**の整備、**バランスよく専門教科と普通教科が学べ**、専門高校に通う生徒でも、進路を選ぶ時に選択肢が少しでも広がるような学習環境が重要。

高校生委員からの発表を受け、知事からは「大学や社会など、皆さんが近未来に行かれるであろう場所において、いずれ大きくなった時には地域や社会に貢献しよう、恩返しをしようという思いを持って未来を考えていただいているのは本当にありがたい。皆さんのために色々な応援をして、皆さんが思い切り活動できるように、未来に向かって夢に向かってチャレンジできるように、県行政も、学校も、地域の産業界の方々とも一緒になってサポートしていきたい。」と話がありました。



本会議で、高校生委員からいただいたご意見やご提案、協議された内容は、本県の教育の振興を図るための施策に反映していきます。

なお、当日の会議の様子や高校生たちの発表資料は県 HP で公開しています。

県 HP　https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2026101300151/　二次元バーコードはこちら

Topics 3 「現場のリアル」をお伺いします　«県教育長と関係者との対話»

県教育委員会では、今城教育長と様々な関係者が意見交換を行い、そこでいただいた「生のご意見や声」を、次年度以降の取組や事業に活かしていくために、教育長との「対話」を実施しています。

８月に、学校にお勤めの３職種の方々との対話を開催しました。

1 「教頭」との対話　令和８年８月７日（金）

県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教頭４名の方々から、校務をマネジメントする立場として大切にしていることや、地域との連携、学校の働き方改革のために心がけていることなどについて対話を行いました。

教頭からの声

- 教職員の**「心と体のケア」を最優先に考え**、特に経験の浅い若手教員が業務を**１人で抱え込まない**よう、具体的な手順を示しながら丁寧に指導・支援している。
- **地域住民、保護者、生徒、教職員それぞれに「子供にどんな力を身につけてほしいか」を問うアンケートを実施**している。**関係者全員が同じベクトルを向いて教育活動や地域協働に臨める基盤**を作っている。
- 指導案や通知表の所見案、学級通信、会議の議事録等の作成に**生成 AI を積極的に活用**し、大幅な時間削減を図っている。
- 「この仕事は 30 分で終わらせる」「４時までにやる」といった**優先順位と終わりの時間を意識した声かけ**を行っている。**「仕事が終わっているのに早く帰りづらい」という教職員の心理的ハードルをなくす**ことに努めている。



2 「県外出身教員」との対話　令和８年８月 18 日（火）

出身である県外の地元を離れ、本県に採用された小学校教員４名の方々から、本県を受審するに至ったきっかけや着任後に効果的であった支援のほか、期待する今後の取組などについて対話を行いました。

県外出身教員からの声

- **大学のゼミの先生や、実際に高知県で教員として働いている多くの先輩方から「高知県はすごくいいよ」**と強く勧められた。
- 地理や生活環境がわからないため、**「車がないと生活や通勤が困難」「このエリアに住んだ方が通勤しやすい」といった具体的なアドバイス**によって、移住への不安が和らぐのでは。
- **若年サポーターの先生**が授業や書類作成をマンツーマンに近い形で**手厚くフォローしてくれた**ことが大きな支えとなった。
- **同期の若手教員だけで集まり**、授業づくりの講座を受けたり、ざっくばらんに悩みを共有して**話し合えたりする研修の場**があり、精神的な孤独感が和らいだ。



3 「養護教諭、栄養教諭」との対話　令和８年８月 26 日（水）

子どもたちの心身の健康や、「食」を通して成長を支える養護教諭、栄養教諭の合わせて４名の方々に参加いただき、学校に一人しか配置されない専門職ならではの目線から、日ごろ感じていることなどについて意見交換を行いました。

養護教諭、栄養教諭からの声

- 特に若手のうちは自ら支援会やケース会議を立ち上げるのが難しいため**管理職からの主導的な投げかけ**があると助かる。
- **専門的な判断に困ってもすぐに相談できないのが悩み。新任１、２年目や異動後の４月は**、引き継ぎがわずかな中で１人職として着任すると、**業務の基盤がなく何から手を付ければよいか困惑**する。
- **学校の職員室に常駐できない勤務形態の場合、学校職員になりきれていない感覚**を抱く。
- 「困った場合の相談先」に困る。**相談先（メンター）をあらかじめ決めておく体制が必要**ではないか。**特に採用後の最初の１ヶ月間だけでも実務を並走してくれる「ペア」がいてくれる**と、ものすごく助かる。



Topics 4 高知県教育の日「志（こころざし）・とさ学びの日」（11 月 1 日）の推進について

本県では、毎年 11 月１日を高知県教育の日「志・とさ学びの日」、11 月１日から７日までを「とさ学びの週間」と定め、県民の皆さまが教育について知り、考えるきっかけづくりとなる取組を行っています。

市町村教育委員会や各学校等においても、「志・とさ学びの日」に関連した様々な取組を実施していただいているところですが、さらに、この日の趣旨の浸透を図り、教育的な風土づくりにつなげていくため、引き続き下記の取組へのご協力をよろしくお願いします。

（１）関連行事への位置付け等について

主として 11 月前後（10 月から 12 月）に開催される行事のうち、趣旨に合致するものを高知県教育の日「志・とさ学びの日」関連行事として位置付け、右記のロゴマークを看板や案内文書等に明示して周知いただくようお願します。

なお、次年度の行事計画の立案にあたっても、可能な範囲で 11 月１日から７日（とさ学びの週間）前後、または 10 月から 12 月での実施となるよう、ご検討をお願いします。



「とさまなチャンネル」で
みんなの学びを紹介！

（２）教育関連データの公表について

市町村の広報誌等に、各地域の教育関連のデータ（例：到達度把握調査、生活習慣、体力、読書の状況、子どもの心の状態、学校評価など）を可能な範囲で掲載していただき、住民の皆さまが地域の教育について知り、考える機会を提供していただくようお願いします。

詳しくは教育政策課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/

問い合わせ　教育政策課　教育企画担当
TEL：088-821-4731

Topics 5 高知県高校生防災サミット　被災地訪問 in 宮城（8月21日～23日）

高知県高校生防災サミットの取組として、隔年で被災地を訪問しています。今年は、東日本大震災で被災した宮城県を訪問しました。高知県高校生防災サミットに参加している８校のそれぞれ代表１名の生徒が参加し、被災された遺族の方々との出会い、交流を通じて、自然災害や防災への知見と、高校生として取り組む防災活動への意欲を高めることができました。

今回の被災地訪問に参加した生徒からは「過去の出来事を繰り返さないよう、高校生のうちから行動を起こしたい。」「自分事として考えないといけない。ここで学んだことを生かし、ふるさと高知を南海トラフ地震から一人でも多くの命が救えるよう日々励んでいきたい。」「私の大切な人、大好きな人を失わないためにも、当時を忘れず語り継ぎたい。」等、交流や体験等を通して、新しい価値や考えに出会うことができたという感想が寄せられました。３日間を通じて防災リーダーとしての意識の高まりが感じられました。

令和７・８年度実践校

高知国際高校
窪川高校
四万十高校
中村高校

令和８・９年度実践校

中芸高校
高知東高校
高知小津高校
大方高校

【被災地訪問　ねらい】
被災地において地震等の実態と復興の状況を学ぶことや、被災された遺族の方々との出会い、交流を通じて、自然災害や防災への知見と、高校生として取り組む防災活動への意欲を高める。

【訪問日程】

○８月21日
- 石巻市立大川小学校　出会い①大川小学校児童遺族　語り部　佐藤敏郎　氏
- 宮城県立石巻西高等学校　出会い②防災士　元石巻西高等学校長　齋藤幸男　氏
- KIBOTCHA　「避難所運営の教訓を学ぶ」齋藤氏によるワークショップ
  「有り、触れた、未来」映画上映会

○８月22日
- 東松島市あおい地区　出会い③青い鯉のぼり祭り発起人　伊藤健人　氏　講話
  出会い④あおい地区会長　小野竹一　氏　講話
- MEET 門脇　出会い⑤日和幼稚園園児遺族　歩き語り部　佐藤美香　氏
- 松島島巡り

○８月23日
- 荒浜地区住宅基礎及び仙台市立荒浜小学校　施設内見学



語り部さんの話を聞く参加者の皆さん（震災遺構　旧石巻市立大川小学校）



避難所運営ワークショップ

それぞれの訪問場所より

★防災は Happy　End！大川小学校は未来を拓く場所
（出会い①語り部　佐藤敏郎　氏）

「避難訓練には本番があった。そこで失敗すると…。」「山は命を救わない。命を救うのは、あらかじめ決めていたことを『行動』に移せるかどうか。」「防災とは、『その時』をどんな状態でむかえるのか。」「死にたくない。死なせたくない。これが防災意識。」「人は絶望では動かない。人は希望で動く。防災は Happy　End」。

参加者は、佐藤さんの１つ１つの言葉を聞き逃すまいと真剣に耳を傾けていました。

大川小学校の校歌には題が付けられています。「未来を拓く」。当時も、そして 15 年たった今でも未来を拓く場所としてそこにあります。

「防災は恐怖のためにやるのではない。防災はハッピーエンド。希望の防災にしないと。」佐藤さんの言葉の中に何度も何度も出てきた言葉です。



仙台市立荒浜小学校を見学。津波の威力を目の当たりにする。

詳しくは学校安全対策課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/

問い合わせ　学校安全対策課　学校安全担当
TEL：088-821-4533

★災間を生きる！避難所運営は『正解』ではなく『成解』を求める　（出会い②防災士　齋藤幸男　氏）

KIBOTCHA でのワークショップでは、始めに２本の棒と布を使ってタンカを作ることからスタートしました。２グループに分かれて試行錯誤しながらタンカを作るがなかなかうまくいきません。避難所運営ワークショップでは、話を聞くだけではなく、実際に動いたり、生徒に質問を投げかけたりするなど、互いにやりとりを交わしながら行っていただいたこともあり、生徒も能動的に活動できました。

★青い鯉のぼりプロジェクト　（出会い③青い鯉のぼり祭り　発起人　伊藤健人　氏）
★日本一の町づくり　住み心地３年連続日本一　（出会い④あおい地区会長　小野竹一　氏）

東松島市あおい地区西集会所―。ここで出会ったのは、あおい地区会長の小野竹一さん。青い鯉のぼりプロジェクト発起人の伊藤健人さん。「津波で亡くなった子どもたちが、天国で寂しくないように青い鯉のぼりを空いっぱいに泳がせたい」という思いから始まったプロジェクト。当時 17 歳でこのプロジェクトを立ち上げ、同プロジェクトを中心に様々な活動を展開している伊藤さん。参加者に近い目線で当時の気持ちなどお話しを聞かせてくれました。

小野さんは、仮設住宅を経て、580 世帯が暮らす市内最大の集団移転地区の自治会会長として、「日本一のまちづくり」を目標に、様々な活動を行っていきます。小野さんの言葉の中で印象深いのが、「どんなに時間がかかっても話し合いで決定した。」という言葉です。まちの名称選考委員には中学生、高校生を加えるなど、一人ひとりを大切にし、未来を見据えたまちづくりが実践されていました。南海トラフ地震後、高知県でも東北と同じ事が起こると推測できます。地区が丸ごと消滅し、また新たに再建していく。小野さんの話にはそのためのヒントがいくつもあったように思います。

★あなたの笑顔にまた会いたい　（出会い⑤歩き語り部　佐藤美香　氏）

MEET 門脇―。当時６歳の長女をなくした歩き語り部の佐藤美香さん。大津波警報が鳴り響く中、乗るはずのない幼稚園のバスに乗せられ、津波と火災に巻き込まれて４歳から６歳の園児５人がなくなった日和幼稚園。日和幼稚園は標高 56mの日和山の中腹にあり、地盤も固く津波・地震による被害は全くなかったそうです。あの日、なぜバスは海に向かって発車したのか―。納得のできる答えがないまま 15 年の時を過ごしてきた佐藤さんの言葉からは、怒り、無念さ、後悔そして、我が子を思う深い愛情など様々な感情を肌で感じました。

Topics 6　「高知県災害時学校支援チーム員養成講座」中級講座（８月４日）

夢のかけ橋第 104 号（令和８年２月発行）でも紹介した「高知県災害時学校支援チーム員養成講座」について、中級講座を８月４日に実施しました。初級より引き続き、43 名の受講者が、大規模災害時に必要とされる学校の対応、心のケアなどを学びました。次回上級講座は令和９年１月に実施予定です。次回の上級講座まで、すべての講座を受講した方を、高知県の災害時学校支援チーム員として任命します。

講師①：角　秀明 先生（石川県立飯田高等学校　前学校長）



角様には能登半島地震発生時に高等学校の校長として対応されたご経験から、大規模災害発生後に起こることや必要な備えについてお話しいただきました。

フロアからの質問にもひとつひとつ丁寧に回答いただき、いざというときに備えて、日頃から何ができるか、必要な心構えとあわせて考える機会をいただきました。



講師②：冨永　良喜　名誉教授（兵庫県立大学大学院　名誉教授）



冨永様には大規模災害後に必要となる心のケアや平時から取り組んでおきたいことについて、Google フォームでフロアの声を拾いつつ、お話しいただきました。

緊張と緩和の演習などを通じて、受講者自身も肩の力を抜くことの重要性を実感しつつ、日常的な子どもへの心のケアの在り方を見直す機会となりました。



Topics 7 「こうち・みらいシンポジウム」を開催しました！

中山間地域等の小規模校の魅力化・特色化を推進し、地元の高校での学びにスポットを当てる「こうち・みらいシンポジウム」を令和８年９月６日に初開催しました。「地元の高校も、なかなかえいがよ！」を合言葉に、地元だからこそ叶う多様な未来を描けるフィールドの魅力を伝えるため、中学生や保護者、中学校の先生方など、合計 250 名にご参加いただきました。

当日は県内 13 会場と本部をオンラインで結ぶハイブリッド形式で開催し、各会場は高知大学生のサポートによる和やかな進行によりあたたかい雰囲気に包まれました。プログラムは、今城教育長のファシリテーションのもと、専門家や地域・卒業生代表らによる第１部トークセッション、現役生や卒業生、保護者らによる第２部「当事者の声」、そして各会場での本音トークが交わされた第３部「みらいカフェ」の３部構成で実施しました。

事後アンケートでは、参加前と比べ「地元高校への印象が変化した」との回答が 86.6%に上りました。特に第２部の「当事者の声」が 71.5%と高い支持を集め、「生徒や保護者のリアルな話が聞けて疑問が解消された」との声が複数寄せられました。参加した中学生からは「人数が少ない学校への考え方が変わり、興味が湧いた」「地元の学校でも良いなと思った」といった前向きな感想も聞かれました。

また、中学校の先生方からも「生徒の成長を目の当たりにし、今後の進路指導にしっかり結びつけていきたい」との声なども寄せられました。児童・生徒、保護者、教員、地域の方など多様な立場の方々が一堂に会し、地元の高校の未来について共に語り合い、考える実り多き時間となりました。



第１部　新しい高校選びの視点を議論



第２部　現役生や保護者が語る地域の学校のリアルな魅力と挑戦の姿



第３部　各会場で地域の未来を一緒に語り合いました

Topics 8 「こうち留学フェア」を開催しました！

「こうち留学」とは、県外の生徒の皆さんに高知県の県立高校の PR を行い、高知県の豊かな自然や食文化、そして地域の人々と関わりながら充実した高校生活を送っていただく取組です。

こうした取組により、県外からの入学生は年々増加しており、今年度は 101 名の方に県外から進学いただきました。

入学者が増えることで地域の活性化にもつながるこの取組を、さらに推進するため、今年度は７月 19 日に神奈川県川崎市で、８月２日に大阪府大阪市で、本県単独の学校説明会である「こうち留学フェア」を開催し、全国生徒募集に取り組む県立高校 11 校と私立高校４校がブースを出展しました。





各高校のブースでは、実際に学校で働く先生方が自校の特色や授業について説明したほか、こうち留学中の在校生が、ホームページやパンフレットだけでは伝わりにくい『リアルな学校生活』などを、来場者の皆さまに丁寧にお伝えしました。

当日は、２会場合計で目標を大きく上回るのべ 101 組 229 名の皆さまにご来場いただきました。来場した中学生からは、「自分の住んでいる地域とは違う環境の楽しさ

を知ることができた」「高知の豊かな自然環境で学びたい」などの声が寄せられました。
　また、来場者アンケートでは満足度 99.0%となり、参加者の皆さまにとって満足度の高い説明会とすることができました。県外の中学生や保護者の方々に、高知県の高校やその魅力を知っていただく良い機会となりました。
　ご来場いただいた皆さまと、来年４月に高知で再会できますことを、心より楽しみにしております。♪

詳しくはこうち留学ホームページをご覧ください。
https://kochi-ryugaku.kochinet.ed.jp/

問い合わせ　高等学校振興課魅力化プロモーション担当
TEL：088-821-4542

Topics 9　「こうち留学サミット」を初開催しました！



　高知県の県立高校 1～3 年生には、全国から集まった 200 名を超える生徒が在籍しています。そうした生徒が集まり、高知県ならではの体験や学校・学年を超えた交流を行う 2 泊 3 日のイベント「こうち留学サミット」を初開催しました。
　当日は県外生だけでなく、高知の魅力発信やつながりづくりのサポート役として高知県内出身の生徒も参加し、合計 31 名で実施しました。

　初日は、パリオリンピック金メダリストの櫻井つぐみさんによる講演を行い、高知の素晴らしさや仲間の大切さについてお話しいただきました。その後、生徒全員でカレー作りを行い、親睦を深めました。
　2 日目は、カツオのわら焼き体験を行った後、黒潮町で開催された「うみべの日曜市」の出展者に取材し、SNS で紹介するためのコンテンツを作成するなどの活動を行いました。
　最終日の 3 日目は、制作したコンテンツやサミットを通じて得た成果などを発表しました。参加した生徒からは、「自分が作ったカツオのわら焼きタタキがとてもおいしかった」「新たな高知県の魅力を発見できた」「陽気で優しく温かいけどパワフルで活動的な県民性や、人と人（生徒と先生）との距離の近さが高知県の魅力」といった声が聞かれました。
　このイベントを通じて、学校の枠を超えた県内・県外出身の高校生や地域の方々との交流が深まり、悩みや喜びを共有できるネットワークづくりになったと考えています。
　こうした経験が、高校卒業後も高知とのつながりを持ち続け、将来的な定着、または交流人口・関係人口の増加につながる契機となることを期待しています。

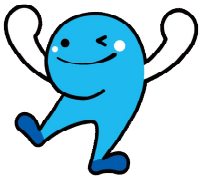


詳しくはこうち留学ホームページをご覧ください。
https://kochi-ryugaku.kochinet.ed.jp/

問い合わせ　高等学校振興課魅力化プロモーション担当
TEL：088-821-4542



お知らせ　**11 月 15 日開催「幡多の日」～幡多でなりたい自分になろう！～**



幡多地域の県立学校や、企業等の取り組みを広く知ることができる「幡多の日」を開催します。
会場では、各校や企業のブース出展とステージ発表を行います。
○入場無料、参加申込不要　　○開催時間：13 時～16 時 15 分

Topics 10 「高知県版地域とともにある学校づくり推進フォーラム」を開催しました



高知県が目指す「地域とともにある学校づくり」の実現に向け、課題を共有し、具体的な協働の在り方を見いだすことを目的とする「高知県版地域とともにある学校づくり推進フォーラム」を令和８年８月２７日（木）に開催しました。

実践発表は、高知市立義務教育学校土佐山学舎の取組の紹介。生徒会からは学校紹介、８年生（中学２年生）からは「ゆず祭りへの道のり」について、校長先生からは、学校と地域がつながり合う「土佐山学」について紹介をしていただきました。学校と地域がつながることの大切さについて、改めて学ぶ機会となりました。

その後のグループ交流（熟議体験）には、土佐山学舎の生徒もそれぞれのグループに参加し、「子どもたちが SNS と上手に付き合うには？」をテーマに行いました。

生徒から出たリアルな意見「明日からできそうな小さな一歩」





【スマホ・SNS の使い方やルール（管理と制限）】

・親が決めるのではなく自分でルールを決めたり、あえて禁止にせず時間を自主管理させたりする、区切りを作る。

【学習や学校生活での活用】

・遊びだけでなく学校行事などにも SNS を活用し、周囲と意見を共有する。
・SNS 等を活用すると学びの幅が広がる。
・自分が考えたことや他人の解決策を共有し合い、お互いに学びを深めていく。

【家族とのコミュニケーション】

・食事中の会話を大切にしたり、ルールの運用について親としっかり話し合う（交渉する）。
・子どもを落ち着かせるため、安易に動画を見せている親もいる



これが一番重要かも？？

➢ **親自身も SNS 等の関わり方について考えてみる**



最後に、文部科学省 CS マイスター　朝倉　美由紀　様から「地域とともにある学校づくりの推進-学校と地域の協働による教育活動の充実に向けて-」と題して講演していただきました。講演では、学校運営協議会制度の基礎的な内容から現場で実際に起こっている状況をどうやって改善していくのか、具体的な事例を用いて説明していただきました。参加者のアンケートでは、「すぐに実行できることばかりではないとは思いますが、できることから自分の学校でも取り入れたいと感じた。」といった意見もあり、参加者にとって実りある研修会になりました。

来年度も同じ時期に開催予定ですので、ぜひ皆様の参加をお待ちしています！

詳しくは生涯学習課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/310401/

問い合わせ　生涯学習課　地域学校協働支援担当
TEL：088-821-4897

Topics 11　「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の違いを知っていますか？

みなさんは、放課後児童クラブと放課後子ども教室を知っていますか？

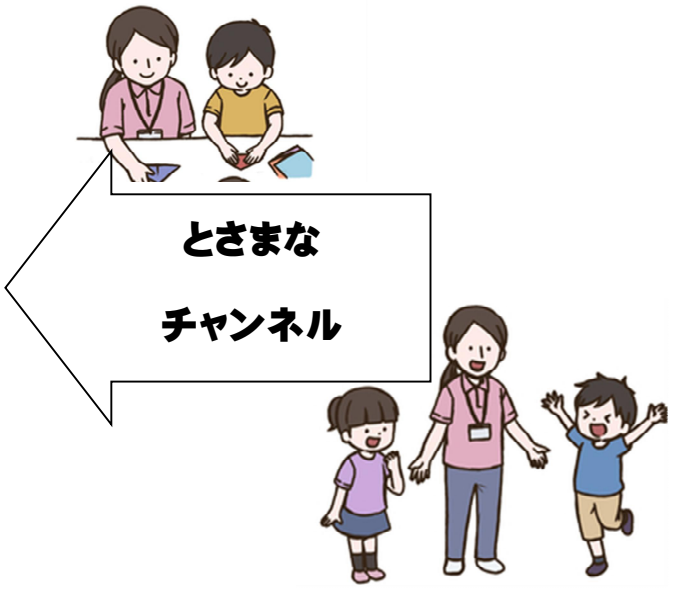
よく耳にする「学童」とは、**放課後児童クラブ**のことであり、**保護者が就労などにより昼間家庭にいない児童を対象**に、放課後や週末に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに仕事と子育ての両立を支援するものになります。

一方、**放課後子ども教室**は、**全ての児童を対象**に、子どもたちに、放課後や週末などに学習支援やスポーツ・文化活動などのさまざまな体験活動を提供し、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するものとされており、主に学習支援、体験活動の場となっております。

放課後児童クラブと放課後子ども教室の主な活動場所は、どちらも学校の余裕教室や学校敷地内にある専用施設であり、国の放課後児童対策パッケージ２０２６において、活動の実施にあたっては、放課後児童クラブ関係者等を学校運営協議会の委員に加え、支援が必要な児童への対応や児童のいじめに係る対応等を共有するなど、コミュニティ・スクールの仕組みを通して連携を充実させることが効果的とされており、**学校と放課後児童クラブ等の連携の必要性**が示されています。

放課後児童クラブと放課後子ども教室が具体的にどのような活動をしているのか、紹介動画を作成しましたので、この機会に是非ご覧下さい。





詳しくは生涯学習課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/310401/

問い合わせ　生涯学習課　地域学校協働支援担当
TEL：088-821-4897

Topics 12 子どもの主体性を大切にした 互恵性のある交流活動

四万十市では、令和７年度から指定事業『**保幼小中連携モデル地域実践研究事業**』として、四万十市がめざす子どもの姿の育成に向けて、各中学校区で特に育みたい非認知能力を中心に、保幼小中の各段階で付ける力を意識した一貫した教育活動の展開に取り組んでいます。

各校区の取組を紹介している『知る 見る つながる』通信では、中筋小学校と東中筋保育所の実践が掲載されています。

交流活動の充実に向けて

ポイント❶
園と小学校が**一緒に話し合って**計画を立てましょう。

ポイント❷
子どもの姿から、**園・小学校それぞれのねらいを立て**、それにもとづいた内容を考えましょう。

ポイント❸
“やって終わり”ではなく、実践後はねらいに立ち返り、子どもの姿で一緒に振り返りましょう。



R8 年度 四万十市保幼小中連携モデル地域実践研究事業『知る 見る つながる』通信
第9号 R8.09.03 発行

２学期には**校区の園との交流活動**を予定している学校も多くあると思いますので、上記にある３つのポイントをもとに、互恵性のある交流活動の実現に向けて、交流活動を通して育みたい力を園と小学校で話し合ってみましょう。



学校の夏期休業中には、各校区にある園で**５歳児の公開保育**を実施し、多くの先生方が参加されたのではないでしょうか。参観後に協議を行い、参観で見られた子どもの具体的な姿を出し合いながら、校区の子どもの育ちや園で大切にしていることなどについて話し合っている校区も増えてきました。校区で大切にしたい経験について共通理解を図ったり、互いの教育への理解を深めたりする機会となっています。

５歳児の保育参観・協議へ参加された先生方の感想を紹介します。

保育所の先生方の多角的なアプローチや言葉掛けは、幼児期の教育にとどまらず、**小学校での児童への関わりや授業づくりにおいても活用できる場面が多々ある**と思った。

子どもが自分で選択し、探究することができるように時間を確保し、子どもの疑問に対し問い返して一緒に考えるようにしたい。**この体験の積み重ねが小学校や中学校での主体的な学びへとつながっていく**のだと感じた。

遊びを通して得た学びの芽をすくすくと成長させることができるように、**「やってみたい!」の気持ちがもてる授業づくりを行っていきたい**。教師の構想のレールにのせるのではなく、**単元で付けたい資質・能力をふまえ、思いに寄り添った子ども発信の活動を展開したい**。



詳しくは幼保支援課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024011100014/

問い合わせ
幼保支援課　幼児教育担当
TEL：088-821-4881

Topics 13 「第 11 回高知県特別支援学校技能検定」が開催されました

県では、特別支援学校で学ぶ生徒が、職業科等の授業を通して身につけた技能等を、専門的な視点から評価及び認定する、高知県特別支援学校技能検定を実施しています。

高知大会（７月 28 日）、幡多大会（７月 15 日）の２会場で【清掃部門】【接客部門】を開催し、各校において【情報部門】の検定も実施しました。

今年度は、県内 13 校の特別支援学校から、166 名（のべ 225 名）の生徒の参加があり 38 名の生徒が１級に認定されました。本番では、どの生徒も緊張感の漂う中、それぞれの受検種目に挑み、学校でしっかり学習してきた成果を出し切りました。また、高知大会では、企業の方に向けた障害者雇用促進セミナーを、幡多大会では、企業見学会を併せて開催し、特別支援学校の生徒が、検定に懸命に取り組んでいる様子を見学していただきました。

９月 11 日には、高知共済会館において認定証授与式が行われ、各部門で１級に認定された生徒に、県教育長より認定証が授与されました。



（高知大会）



（幡多大会）



（認定証授与式）

詳しくは、特別支援教育課ホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/

問い合わせ
特別支援教育課
TEL：088-821-4741

Topics 14 令和８年度視聴覚教育・情報教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）

視聴覚教育・情報教育功労者表彰は、多年にわたり、学校教育又は社会教育における視聴覚教育・情報教育の振興に功績のあった方を文部科学大臣が表彰するものです。

高知県からは、黒瀬　忠行 氏が被表彰者として決定されました。

これまでのご尽力に深く感謝申し上げるとともに、今後のさらなるご活躍を祈念いたします。

氏　名	功　績　概　要	主　要　経　歴
黒瀬　忠行　氏	教員として採用されて以来、コンピュータを活用した授業実践に取り組むとともに、研究会や児童生徒の作品展の事務局を担い、視聴覚教育・情報教育の普及・発展に貢献した。また、全国的な研究協議会を高知県で開催する際は事務局長を担い、先進的研究を県内に広げた。定年前６年間は高知県放送教育研究協議会の副会長・会長を歴任し、後進育成に取り組んだ。	現佐川町教育委員会教育指導員 元四国地方放送教育研究協議会副会長 元高知県放送教育研究協議会会長 元高知県視聴覚教育研究会会長

Topics 15 全国高等学校ビブリオバトル 2026 高知県大会 参加者募集！！

「全国高等学校ビブリオバトル 2026 決勝大会」への出場権をかけて、高知県内の高校生を対象にした高知県大会をオーテピアで開催します。ビブリオバトルは、お気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力を紹介する知的書評合戦です。優勝者は令和９年２月に東京都で開催予定の決勝大会に招待されます。

ビブリオバトルに参加することで本への理解が深まり、スピーチ力も磨かれます。読んでみたいと思える本と出会えるかもしれません。

ビブリオバトル高知県大会ルール概要　※詳細は、ウェブ・サイトにて開催要項をご確認ください。

① 発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。紹介する本は雑誌・漫画本以外。
② 順番に一人５分間で本を紹介する。
③ それぞれの発表の後、発表者・観戦者全員でその発表に関するディスカッションを２分間行う。
④ 全員の発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を発表者・観戦者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。



イラスト・雪下まゆ

申込方法

発表者

・メール（teens@library.kochi.jp）
【発表者の申込期間】
令和８年 10 月６日(火)～ 10 月 30 日(金)

※定員の１６名に達し次第、受付を締め切ります。

観戦者(一般の方もお申込できます)

・メール（teens@library.kochi.jp）
・インターネット（高知県電子申請サービス）
・電話 088-823-4946（代表番号）
【申込期間】
令和８年 10 月６日(火)～11 月３日(火・祝)

※定員の 70 名に達し次第、受付を締め切ります。

【開催日】**令和８年 11 月８日（日）**　13：00～16：30
【場　所】オーテピア４階　ホール・研修室
【対　象】発表者……高知県内の高等学校に在籍している者（高知工業高等専門学校に在籍の者は高校３年次相当まで）
　　観戦者……どなたでも
【定　員】発表者……16 名
　　観戦者……70 名



昨年度の高知県大会の様子

詳しくはオーテピア高知図書館ウェブ・サイトをご覧ください。
https://otepia.kochi.jp/library/event.cgi?id=20250710094701s87ak7

問い合わせ　オーテピア高知図書館
TEL：088-823-4946

Topics 16 お城下文化の日に合わせてリサイクル本を配布します

お城下ネット（正式名：高知お城下文化施設の会）は、高知市中心部（旧城下町）の７つの文化施設（高知城歴史博物館、高知城、龍馬の生まれたまち記念館、県立文学館、横山隆一記念まんが館、オーテピア高知図書館、高知みらい科学館）が、相互に連携・協力して文化振興に取り組むため、平成 28 年（2016 年）に発足した団体です。

お城下ネットでは、県民に文化に親しむ機会を提供するとともに、文化施設を学びの場として活用していただくことを目的に、毎年 11 月に「お城下文化の日」を開催しています。今年は、記念すべき第 10 回を迎えます。

オーテピア高知図書館では、図書館での役割を終えた本（リサイクル本）の無料配布を行います。

第 10 回の節目となる「お城下文化の日」を機会に、ぜひ各文化施設の催しをお楽しみください。

◆日　　時：11 月８日（日）　10 時～15 時

◆場　　所：高知市帯屋町２丁目商店街アーケード

◆問い合わせ：オーテピア高知図書館　資料管理担当



オーテピア高知図書館ウェブ・サイトはこちら。
https://otepia.kochi.jp/library/

問い合わせ　オーテピア高知図書館
TEL：088-823-4946 (代表)

Topics 17 バリアフリー映画会　映画「かがみの孤城」

バリアフリー映画会は、「見ること」「聞くこと」に障害がある方もない方もみんなで楽しめる映画会です。みなさまのご来場をお待ちしています。

セリフの他に場面を説明する音声ガイドが流れ、日本語字幕が表示されます。

会場には、ヒアリングループ補聴システムを設置しています。

【開催日】　令和８年 11 月 28 日（土）
【上映時間】午前の部　10：00～12：00
　　午後の部　14：00～16：00
【場所】　オーテピア４階　ホール
【定員】　各回 80 名
【参加費】　無料
【入場券】　上映 45 分前に配布開始
【開場】　上映 30 分前

【上映作品】
映画「かがみの孤城」
監督：原 恵一　　原作：辻村 深月
声優：當真 あみ／北村 匠海　ほか
〔カラー／日本語／バリアフリー日本語字幕／バリアフリー日本語音声ガイド／116 分／2022 年／日本作品〕
©2022「かがみの孤城」製作委員会

【内容紹介】
学校での居場所をなくし部屋に閉じこもっていた中学生・こころ。ある日突然部屋の鏡が光り出し、吸い込まれるように中に入ると、そこにはおとぎ話に出てくるようなお城と見ず知らずの中学生６人が。さらに「オオカミさま」と呼ばれる狼のお面をかぶった女の子が現れ、「城に隠された鍵を見つければ、どんな願いでも叶えてやろう」と告げる。期限は約１年間。戸惑いつつも鍵を探しながら共に過ごすうち、７人には一つの共通点があることがわかる。互いの抱える事情が少しずつ明らかになり、次第に心を通わせていくこころたち。そしてお城が７人にとって特別な居場所に変わり始めた頃、ある出来事が彼らを襲う――――――

※車椅子の方、視覚の障害等により介助が必要な方で、オーテピア近隣からの案内が必要な場合は、11 月 21 日（土）までに、問い合わせ先までご連絡ください。

詳しくはオーテピア高知図書館ウェブ・サイトをご覧ください。
https://otepia.kochi.jp/library/event.cgi?id=20260821155302jaj0vq

問い合わせ　オーテピア高知声と点字の図書館
TEL：088-823-9488

Topics 18 子どもや保護者のための居場所

心の教育センターでは、学校への通いづらさや集団で過ごすことに不安がある子ども、子育てに悩みを持つ保護者のための居場所づくりに取り組んでいます。

こころオンラインサポート

パソコンを使用してメタバース空間に自分の分身となる「アバター」を作り、オンライン上での自主学習や交流活動ができる居場所を開設しています。
子どもたち一人一人のペースに合わせたＩＣＴの活用をサポートします。
また、交流イベントなども実施しています。

＊開催日　月・金曜日　　9:30 ～ 11:30
　　火･水･木曜日　13:30 ～ 15:30
＊対　象　小･中･高生及び 18 歳までの子ども

メタバース内での会話は、音声とチャットのどちらでも対応可能です。



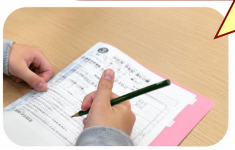
中高生等の居場所　Kochi Teens Base

高知県立大学内に自分のペースで過ごすことができる居場所を開設しています。ＡＩドリルを使った自主学習や施設を利用した活動など、自分の興味を広げながらゆったりと過ごすことができます。
学習支援や活動のサポートは、学生ボランティアとスタッフが行います。イベントも実施しています。

＊開催場所　高知県立大学 永国寺キャンパス内
＊開 催 日　毎週金曜日　13:30 ～ 16:15
＊対　　象　中･高生及び 18 歳までの子ども



過ごし方を自分で選べます。
見学や体験も、もちろんOK。



ことことパーク

遊びやものづくり、体を動かす活動などを通して、少人数で楽しみながら安心して過ごせる居場所です。
カードゲームやボードゲーム、折り紙、バランスボールなどを使ってスタッフや参加者と交流します。

＊開催日　月曜日　15:30 ～ 16:30
　　土曜日　10:30 ～ 11:30
＊対　象　小･中･高生(各回１～4 名程度で実施)

カードゲームなど、様々なグッズを揃えています。

10/24 と 11/28 (いずれも土曜日)は、体育館で体を動かす活動も予定しています。



保護者の交流の場　ほっと garden

日々のお子さんとの関わりのなかで、うれしかったことや「これでいいのかな？」とふと立ち止まることなど、子育て中の保護者同士でお話をしたり、ほっとしていただいたりするための居場所です。

＊開催日（年５回程度開催）
　　土曜日　10:30 ～ 11:30
　☆ことことパークと同時開催。今年度は、
　　あと２回（11/14 と 2/13）を予定。
＊対　象
（小･中･高生及び 18 歳までの子どもの）保護者



子どもたちが「ことことパーク」で活動している間に、「聴いて、はなして、ほっとして♪」

○いずれも事前予約が必要です。参加希望日の開催状況など、まずは下記までお問い合わせください。

詳しくは、高知県心の教育センターホームページをご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/311902/

問い合わせ
高知県心の教育センター
TEL：０８８-８２１-９９００

Topics 19 とさまなチャンネルに投稿した動画のご紹介♪

▶ 体験で広がる子どもの未来 ～地域と一緒に子どもの自主性を育てる放課後子ども教室

放課後子ども教室の活動の様子がわかる動画ながよ！ぜひ見てよ～



放課後子ども教室の動画はこちらから



▶ 県の教育長って何をしゆうが？～今城教育長の１日に密着！～



教育長って普段どんなお仕事しゆうかよくわからんかったけど、これを見たらどんな１日を過ごしゆうかわかるがやって！見るのが楽しみやね～♪

今城教育長の１日の動画はこちらから



▶ 教職大学院ってどんなとこ？ 高知県の先生に聞いてみた！【大学院派遣研修】



鳴門教育大学 教職大学院で研修中の先生にお話を聞いてきたがやって！ぼくも行ってみたいな♪

教職大学院の動画はこちらから



▶ 課長が行く！（高知海洋高校） ～こうち留学生はどんな場所でくらしているの？～



県立高知海洋高等学校の「くろしお寮」を生徒さんが紹介してくれちゅうよ！ぜひチェックしてよ～

高知海洋高校の寮の動画はこちらから

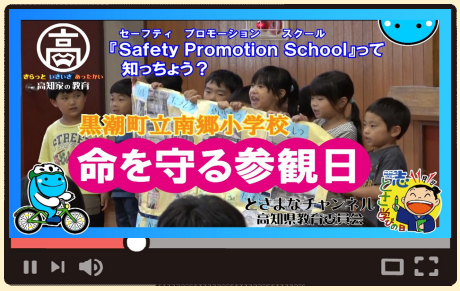


▶ Safety Promotion School （セーフティプロモーションスクール）って知っちょう？ ～黒潮町立南郷小学校「命を守る参観日」

Safety Promotion School っていう取組について子どもたちが一生懸命発表しゆうき、ぜひ見てよ～



Safety Promotion School の動画はこちらから



詳しくは YouTube チャンネル『とさまなチャンネル』をご覧ください。
https://www.youtube.com/@user-dx7bm9tn8h

問い合わせ

教育政策課　教育企画担当
TEL：088-821-4731





今回の「とさまなコラム」では今城教育長がみんなぁに伝えたいことがあるみたいやき、ぜひ読んでよ～。



みんなで育む「高知家」の学校

～『学校と家庭・地域とのより良い関係づくりのための手引き』のスタートに寄せて～

1　『手引き』を作成するにあたり、大切にしたこと

日頃から、子どもたちの健やかな成長のために情熱を注いでくださっている県内全ての教職員の皆様に、心から感謝申し上げます。

さて、私は、本誌第 103 号のコラムで、不祥事根絶に向けて「信頼回復は日々の態度と行動の積み重ねであること」、また、「マルトリートメント（不適切な関わり）の根絶」を強く訴えました。

一人ひとりの子どもを対等な人間として捉えること、子どもとの信頼関係を構築すること、自らの行動を省みる謙虚さをもつことなどは、教育の原点です。

同時に、教職員自身が互いに心を支え合い、職員室が安心して過ごせる場所でなければなりません。一人で抱え込み、小さく傷ついている人を孤立させない。そのためには、違和感や兆候にいち早く「気づく」プロの意識と、組織で守り合う体制が不可欠です。

2「信頼回復」は、日々の態度と行動の積み重ね

【マルトリートメント（不適切なかかわり）の根絶と私たちが取り組むべき原点行動】

◆教育の原点や初心に立ち返り、一人ひとりの子どもを対等な人間として捉えること。

◆温かいまなざしで子どもを捉え、温かい声かけをするなど、「質の高いコミュニケーション」を実施することで信頼関係を構築し、学校を安心して過ごせる場所にすること。

◆責任を子どもや保護者に転嫁せず、自分自身を振り返って反省する謙虚な姿勢を堅持すること。

・誠実である　・真っ直ぐである　・感謝する　・弱さを認め助け合う

＜「夢のかけ橋」第 103 号＞

こうした想いをもとに、保護者や地域の皆様との関係性において具体化し、この９月に県教育委員会において策定したものが『**学校と家庭・地域とのより良い関係づくりのための手引き**
～きらっと　いきいき　あったかい　みんなで育む「高知家」の学校～』です。

2　教職員として心がけておくべきこと

本手引きには、「より良い関係づくりに向けた対応方針」「社会通念を超える要望等」「具体的な対応」「事後対応」「相談窓口」「類型別対応例」などを掲載していますが、これら全ての前提にあるのが、学校と家庭・地域は、子どもたちの健やかな成長という共通の目標のもと、それぞれの役割と責任を果たしながら連携・協働する「**対等なパートナー**」であるということです。

このため、「対応方針」において、双方で守るべき「5 つの基本ルール」と、私たち教職員が日頃から心がけておくべき「7 つのポイント」を定めました。

学校に届く保護者や地域からの声は、学校への期待や大切な気づきの表れであり、最初から「クレーム」と決めつけてはなりません。

手引きに掲げた「7 つのポイント」にあるとおり、**まずは私たちが「傾聴・受容・共感」の姿勢を基本とし、自らの行動を律することが、相互の信頼を生みます。**



＜『学校と家庭・地域とのより良い関係づくりのための手引き』概要版＞

3　社会通念を超える不当な要求や不当な行為があったとき

万が一、社会通念を超える不当な要求や不当な行為に直面したときには、先生方が決して一人で傷つき、我慢を重ねることがないよう、**学校と教育委員会が一体となって「一人で抱え込まない組織的対応」と、「毅然とした制止」を行います。教職員を守ることは、結果として多くの子どもたちの健やかな教育環境を守ることに他なりません。**

今回策定した手引きは、「県立学校用」として県教育委員会が定めたものです。また、これに合わせ、学校の対応ルールやご理解・ご協力を呼びかける保護者・地域向けの周知チラシも作成しました。

小・中学校をはじめとする市町村立学校におかれましても、子どもを中心に置いたパートナーシップの考え方は全く共通です。**保護者や地域との良好な関係づくりに向けた取組の一助として、本手引きやチラシを活用していただければ幸いです。**

県内すべての学校で「きらっと いきいき あったかい 高知家の教育」を実現するため、私も先生方の挑戦や悩みをしっかりと受け止め、必要な支援をためらわず行ってまいります。ともに歩んでいきましょう。



＜『学校と家庭・地域とのより良い関係づくりのための手引き』保護者・地域向けお知らせ＞

これらの手引きやチラシは、教職員・福利課のホームページに掲載されていますのでご覧ください。
https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2023120700023/

教職員・福利課 HP→

＜発行者＞高知県教育委員会事務局教育政策課
TEL：088-821-4731　FAX：088-821-4558　E-mail：310101@ken.pref.kochi.lg.jp
高知県教育委員会 WEB サイト：https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/
※本広報紙への感想やご要望がございましたら、発行者までお寄せください。

